

## I 『教師教育教材』の昭和59年度実施状況について

『教師教育教材』の制作は、放送教育開発センターにおける研究及び開発の一環であるとともに、国立大学等の教員及び研究者との共同研究を踏まえて実施する『教材』の作成に係る事業であり、センターが〔国立大学教育工学センター協議会〕、〔全国私立大学教職課程研究連絡協議会〕及び〔東京地区教育実習研究連絡協議会〕に所属する国公立大学の教員が自主的に組織した『教師教育メディア開発研究会』と連携協力して、教職課程における教育方法の改善と、現職教師の資質向上を目指す等幅広い意味での教師教育に使用することを前提として実施するものである。

### 昭和59年度実施概要

教材の研究開発に関する企画委員会を発足させ、教材作成のための調査と具体的内容の策定等を審議した上で、教職課程における「教育実習」を中心とした教材の試作品を制作した。

#### 1 企画委員会の発足

センターでは、放送というメディアを活用した教育について、多様化するニーズに応え、かつ、共通的に利用できる教材の作成を考慮してきたが、今般、前述の『教師教育メディア開発研究会』と連携して、高等教育機関とりわけ教員養成系大学等における共通教材を作成することとなった。

これにより、本研究開発事業の実施要領を定め、研究開発に関する基本的事項を審議する「企画委員会」を発足させ、昭和59年度は、次の委員により構成し、種々の調査及び審議を行った。

阿部 美哉（放送教育開発センター 教授）  
井上 光洋（東京学芸大学 助教授）  
児島 邦宏（東京学芸大学 助教授）  
\*坂元 昂（東京工業大学 教授）  
四方 道人（放送教育開発センター 助教授）  
柴田 義松（東京大学 教授）  
鈴木 慎一（早稲田大学 教授）  
鈴木 崑生（放送教育開発センター 助教授）  
高桑 康雄（上智大学 教授）  
高橋 勉（早稲田大学 教授）  
西之園晴夫（京都教育大学 教授）  
八田 昭平（兵庫教育大学 教授）

\*委員長

50音順

## 2 ニーズ調査

教材を作成する上で、直接利用してもらおうであろう全国の国公立大学・短期大学の教職課程に係わる教員を対象として、教材としての認識をもってもらうとともに、教職課程のなかから特に教材化が望まれている内容やその必要度並びに教材としての利用可能性を調査する目的で、全国の国公立大学・短期大学774校の教職課程を担当する教員各3名に対して実施した。

調査項目については、企画委員会にアンケート作成部会を設け、ビデオ等視聴覚設備の現状から市販の副教材の利用状況並びに教材としての要望を踏まえて作成した。

なお、本調査に先立ち、先行的に予備調査として関東地区の教職課程担当教員約60名に対して同様の調査を実施した。

本調査における回答状況は、次のとおりであった。

実施時期 昭和59年7月～9月

| 区 分         | 送 付       | 回 答     | 回答率       |
|-------------|-----------|---------|-----------|
| 国立大学 77校    | 241(10)   | 99(7)   | 41%(70%)  |
| 公立大学 26校    | 79(1)     | 17(1)   | 21%(100%) |
| 私立大学 224校   | 698(26)   | 122(9)  | 17%(35%)  |
| 国立短期大学 11校  | 33(0)     | 8(0)    | 24%( )    |
| 公立短期大学 35校  | 105(0)    | 21(0)   | 20%( )    |
| 私立短期大学 401校 | 1,226(23) | 242(7)  | 19%(30%)  |
| 計 774校      | 2,382(60) | 509(24) | 21%(40%)  |

( )内は予備調査数値

### 3. 長期計画

前述 2. ニーズ調査の集計結果等を参考として、本研究開発事業を推進していくための方針として長期計画(案)を策定した。

調査結果の内容は、約70%の学校が1セット以上のビデオテープレコーダーを有しており、NHK等の放送番組や市販のVTR教材を利用したことがある学校は、全体の65%に達した。また、本研究開発が目指す教材について、「是非利用したい」と答えた者は約80%で、要望が高いことを示しており、作成を要望する教材内容についても積極的な意見が寄せられた。

これらを踏まえて、教職課程の全般を3部構成に分割して必要度(ニーズ)の高いものから順次作成する方向で長期計画(案)を策定してあるが、具体的な個々の課題はどうするか、ビデオ・オーディオ等教材媒体は適当かといった問題点を残している。

このため、当面の課題として教育実習の事前指導にスポットをあてて教育実習の実態を的確に伝達し、かつ、実践的学習と研究のための材料を提供するため「教育実習の日々」をテーマとして、ビデオ教材を作成することとした。

#### 4. 試作教材の作成

昭和59年度は、教師教育教材の試行的作成を行うこととして、教育実習の事前指導のための教材「教育実習の日々」を小学校・中学校・高等学校の3対象について、ビデオ教材と印刷教材をセットにして、それぞれ作成した。

|            |       |            |
|------------|-------|------------|
| 教育実習場面収録…… | 昭和59年 | 9月上旬～      |
|            |       | 昭和59年10月下旬 |
| 資料素材の整理……… | 昭和59年 | 10月下旬～     |
|            |       | 昭和59年11月下旬 |
| 粗編集（試写）……… | 昭和59年 | 12月上旬～     |
|            | 昭和60年 | 1月中旬       |
| 編集（検討会）……… | 昭和60年 | 1月中旬～      |
|            | 昭和60年 | 2月上旬       |
| 印刷教材の作成……… | 昭和60年 | 1月中旬～      |
|            | 昭和60年 | 2月上旬       |
| 試作教材完成………  | 昭和60年 | 2月中旬       |

##### 1) ビデオ教材

教育実習における課程をテーマとしているため、2週間にわたる教育実習期間中に実施される内容をロケーションによりVTR収録し、収録後編集を行い作成した。

特に、ビデオ教材の作成にあたって「教育実習」の内容を扱うということで、教材として一定の時間内に2週間の題材を取り入れるという構成面もさることながら、教育実習の現場をいかに収録するかが教材作成の重要なポイントとなったが、幸いにも、企画委員会委員の尽力により、小学校にあっては井上・児島両委員が所属する東京学芸大学の附属大泉小学校（中村 義校長）の協力、中学校及び高等学校にあっては柴田委員が所属する東京大学の附属校で

あり同委員が前校長を務めた附属中・高等学校（牧 征名校長）の協力が得られ、また、実際のロケーションでは各協力校の実習を担当された先生方並びに教育実習生の方々の全面的な協力のもとに、スムーズに収録が実施できた。

A ロケ協力校

小学校……………東京学芸大学附属大泉小学校  
中学校・高等学校…東京大学附属中・高等学校

B 教育実習期間

小学校……………昭和59年10月2日～10月20日  
中学校・高等学校…昭和59年9月1日～9月14日

C 収録方法

ENGスタイルのカメラ2台を基本としたロケーションによるVTR収録

D 収録内容

- I 紹介式（実習生の紹介等）
- II 教壇実習（授業実習）
- III 教壇実習（研究授業）
- IV マイクロティーチング
- V 反省会

E 作成担当者等

企画委員会に、小学校・中学校・高等学校の3対象それぞれにコースチームを結成し、委員による分担とロケ協力校の指導教官等で組織し、作成・編集にあたった。

2) 印刷教材

ビデオ教材に対応する印刷教材として、従来のテキスト形式にこだわらないシナリオ・プロトコール形式にロケ協力校の紹介等を盛りこみ、ビデオ教材の視聴とセットにし

て、より内容をリアルに伝えるための工夫を施して印刷教材を作成した。

この印刷教材の作成にあたっては、井上・児島両委員が積極的に印刷教材の有り方を考察し、教育実習という実地体験を事前指導するには、テキストや参考書では現実性が薄れてしまうことが考慮されるため、実際にビデオ教材に収録されている内容を多大なる労力を費やしてテープ反訳し、シナリオ・プロトコール形式にまとめるという影の努力によって作成したものである。

## 5. 完成した試作教材

昭和59年度完成した試作教材は、次のとおり。

なお、小学校及び中・高等学校の教育実習場面を、ロケーションによりVTR収録したため、実習期間中各々9日間にわたるロケーションで収録した素材についても整理し、保存している。また、この素材を利用して教師教育教材の研究開発用の資料として「実習生の授業」「授業の方法」を編集して完成させた。

### 1) 教材

「教育実習の日々－小学校編－」……………47分50秒

「教育実習の日々－中学校編－」……………35分15秒

「教育実習の日々－中学・高校編－」…33分03秒

「教育実習の日々－高等学校編－」……30分30秒

### 2) 資料

「実習生の授業－小学校国語編－」……50分30秒

「実習生の授業－小学校算数編－」……41分30秒

「実習生の授業－高校国語編－」……………31分35秒

「授業の方法－小学校算数編－」……………50分10秒

### 3) 素 材

教育実習の記録 小学校…………… 20分テープ67本  
中・高等学校… 20分テープ62本

## 6. 視聴シンポジウムとモニター調査

完成した試作教材を活用して、今後の教材作成のための具体的な要望を調査する目的で、視聴シンポジウムを2回開催するとともに、視聴シンポジウム出席者のなかから申込みのあった者をモニターとして各所属大学等で利用してもらい、学生の反応や教師の感想等をアンケート形式で提出してもらおうこととした。

### 1) 視聴シンポジウム

第1回は、昭和60年2月16日に「東京地区教育実習研究連絡協議会」のメンバーを対象者として「教育実習の日々－中学・高校編－」を、第2回は、昭和60年2月22日に「国立大学教育工学センター協議会」のメンバーを対象者として「教育実習の日々－小学校編－」をそれぞれ視聴してもらい、試作教材についての評価と教材編集に対する注文等をアンケート形式により調査した。

### 2) モニター調査

前述の視聴シンポジウム参加者の中から、申込みのあった55名の教職過程に係わる教員をモニターとして、試作教材による試行的視聴をして、教材としての完成度や反応・要望・感想を調査する目的で、モニター視聴調査を実施することとした。

この調査は、昭和60年6月以降に実施される教育実習を受ける学生の事前指導として試用し、視聴した学生からアンケート調査を行い教材としての完成度等を、調査しよ

うとするものである。

## 7. 今後のとりすすめ

教師教育教材の研究・開発の今後のとりすすめ方としては、まず、昭和59年度に試作した教材「教育実習の日々」を、教育実習をこれから受けようとする学生に事前指導として視聴させる。

これにより、本研究開発事業が目指す「教師教育」の一端を、視聴した学生に、「教育実習で実習生が体験する状況を生の姿で伝える」ということで達成し、教職に対する適性の発見と確認並びに心構えを持たせ、とりわけ、教職を選ぶ者の人間的課題の発見、教職観の確立、といった専門的力量のための経験的・実践的な学習と研究についての予備知識を与える。

次に、試作された教材の完成度等を視聴者からのアンケート調査等による要望や感想等をもとに、これからの教材作成のための重要な情報として、具体的な形で修正を行うとともに、教材の作成のために新たな企画を施して、要望が高い題材から作成に臨む。

また、試作された教材は、教職を目指す者にとっての重要な経験的・実践的学習と研究の材料であるとともに、現職の教師にとっても貴重な研究資料であることは言うまでもない。

このため、作成された教材が幅広く利用することができるよう、その利用方法や提供方法といった措置を早急に講じる予定である。

なお、具体的な教材作成の課題として、前述の視聴シンポジウムでの要望や、現実に教職を目指す学生の多くは公立学校において教育実習を受けるということを踏まえ、より一般的な教材作成にあたることとして「教育実習の日々－公立学校編－」



の作成を予定している。

昭和59年度年間行事表

- 59. 5.24 研究準備会
- 6. 9 第2回研究準備会
- 6.21 企画委員会
- 7.17～ アンケート調査（ニーズ）実施
- 7.25 第2回企画委員会
- 8. 3 センター視察
- 8.21 試作打合せ（小学校編）
- 8.23       "       （中・高校編）
- 9. 1～ 9.14 ロケーション（中・高校編）
- 9. 8 第2回試作打合せ（小学校編）
- 10. 2～10.20 ロケーション（小学校編）
- 11.13 編集打合せ
- 12. 4 第3回企画委員会
- 12.25 編集打合せ（小学校編）
- 60. 1. 5 編集打合せ（中・高校編）
- 1. 8. 第2回編集打合せ（小学校編）
- 2.16 第4回企画委員会（視聴シンポジウム①）
- 2.22 視聴シンポジウム②
- 3.15 第5回企画委員会
- 3.27 第6回企画委員会